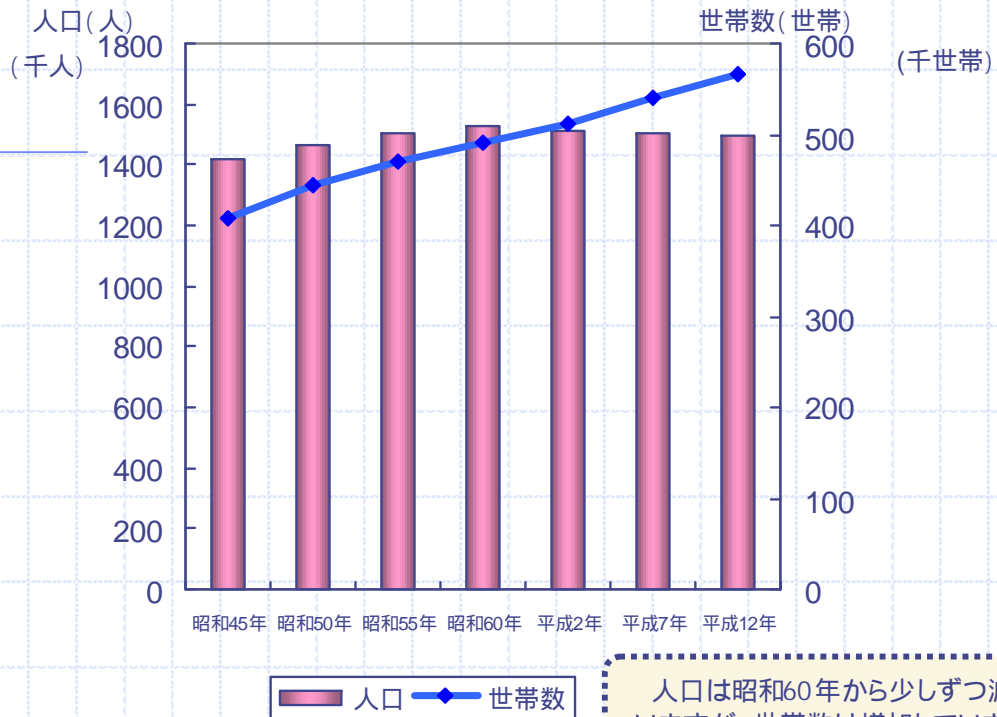


現状の分析

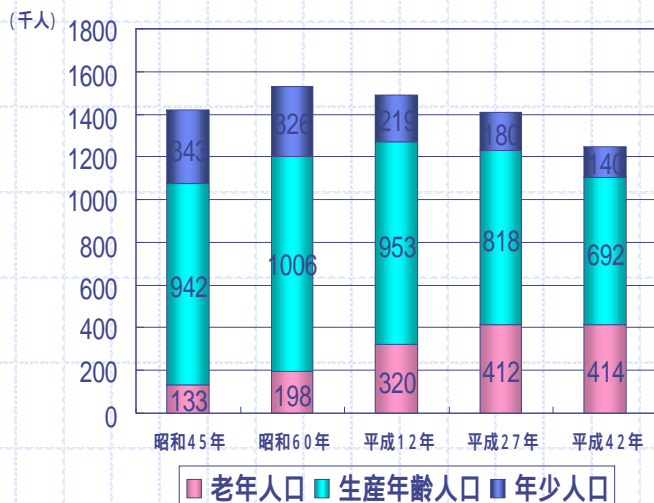
愛媛県の人口と世帯数の推移



人口は昭和60年から少しずつ減少していますが、世帯数は増加しています。

資料: 国勢調査

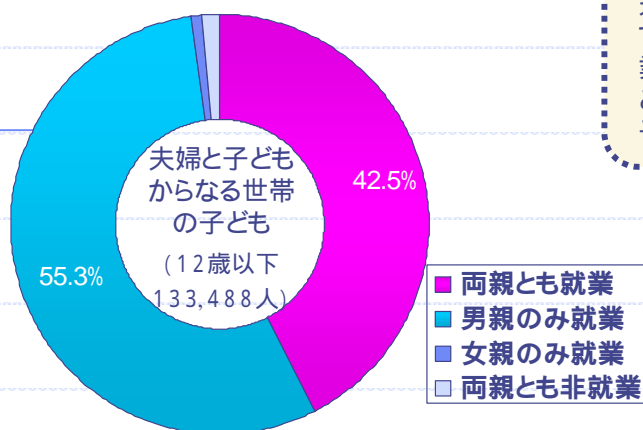
愛媛県の年齢(3区分)別の推移



年少及び生産年齢人口の減少と老年人口の増加が予想されます。

資料: 昭和45年、昭和60年、平成12年は総務省国勢調査
平成27年、平成42年は国立社会保障人口問題研究所
都道府県別将来人口

愛媛県の12歳以下子どもからみた親の就業状況 (夫婦と子どもからなる世帯)

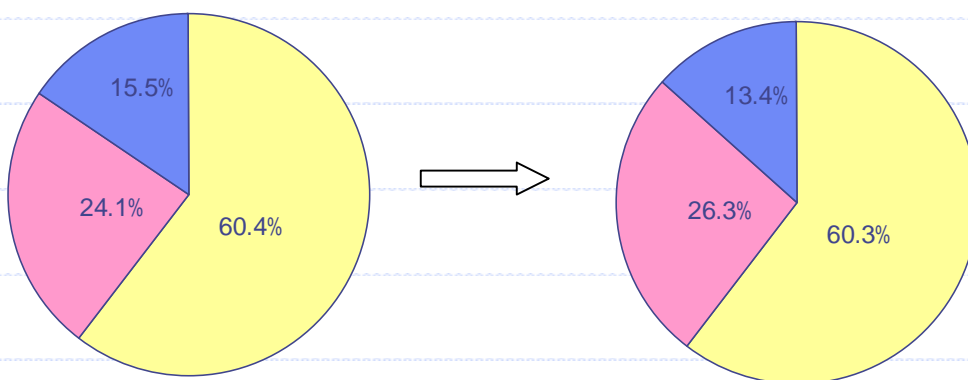


夫婦と子どもから成る世帯について、12歳以下児童からみた親の就業形態をみると、約5割は男親のみが就業していますが、約4割の子どもは、両親とも就業しています。

資料:平成12年 国勢調査

愛媛県の世帯構成の変化

核家族世帯と単独世帯が平成12年には、全体の86.6%を占め、平成7年の84.5%に比較して、2.1ポイント上昇しています。



■ 核家族世帯 ■ 単独世帯 ■ その他

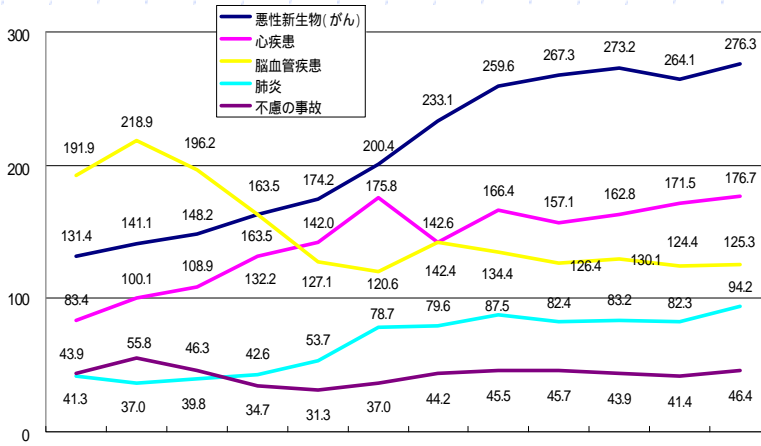
資料:平成7年 国勢調査

■ 核家族世帯 ■ 単独世帯 ■ その他

資料:平成12年 国勢調査

平成12年の65歳以上の単独世帯は、51,191世帯(65歳以上親族がいる一般世帯の23.8%)で、平成7年の41,193世帯(同、21.4%)に比較して2.4ポイント上昇しています。

愛媛県の主要死因別死亡率(人口10万人対)

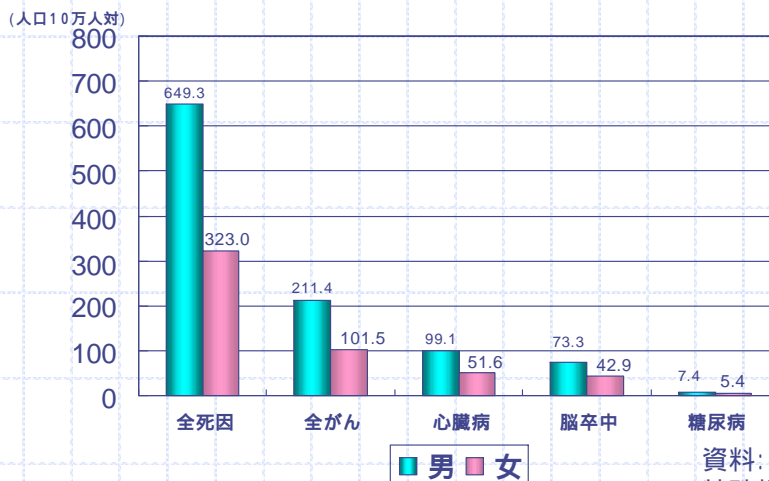


昭和40 (1985) 昭和45 (1990) 昭和50 (1995) 昭和55 (2000) 昭和60 (2003) 平成2 (2005) 平成7 (1995) 平成11 (1999) 平成12 (2000) 平成13 (2001) 平成14 (2002) 平成15 (2003)

主な死因は、悪性新生物(がん)、心疾患、脳血管疾患の順になっています。

資料: 平成16年愛媛県保健統計年報

愛媛県の主な疾病の年齢調整死亡率



本県の全死亡の年齢調整死亡率は、男性649.3、女性323.0となっています。全がん、心臓病、脳卒中の3大生活習慣病で死亡する割合が高くなっています。

年齢調整死亡率
人口の年齢構成の影響を調整して求めた死亡率

資料: 平成12年厚生労働省人口動態統計特殊報告(愛媛県版)

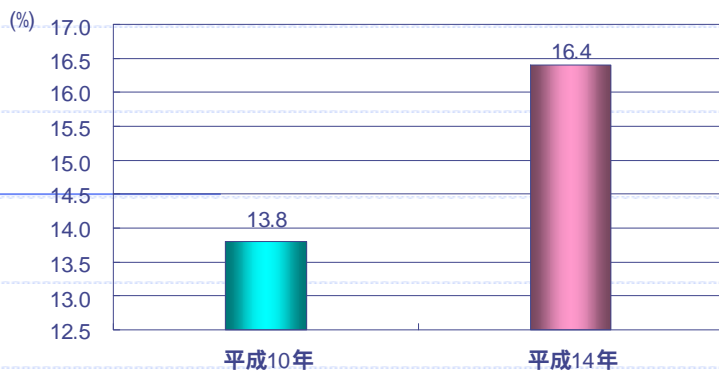
肥満者およびやせの割合

成人肥満者の割合(BMI > 25)	男性(20~69歳) 29.0%	女性(40~69歳) 24.8%
肥満児(日比式による標準体重の20%以上) 【参考:ロ-レル指数160以上の割合】	児童生徒(6~14歳) 10.3% [7.5%]	
20歳代女性の「やせ」の割合(BMI < 18.5)	22.6%	
70歳以上の「やせ」の割合(BMI < 18.5)	10.6%	

成人男性の肥満者は29.0%、女性(40~69歳)の肥満者は24.8%で20歳代女性のやせの割合は22.6%となっています。また、児童生徒の肥満児の割合は10.3%となっています。

資料: 平成16年県民健康調査

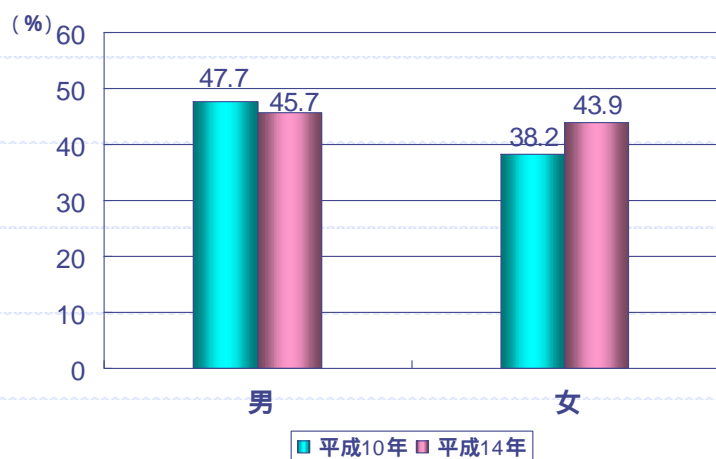
基本健診において糖尿病(疑いを含む)を指摘された人の割合



市町が行う老人保健事業の基本健診において、糖尿病(疑いを含む)を指摘された人の割合は16.4%と上昇しています。

資料: 平成11年 愛媛県保健統計年報
平成15年 愛媛県保健統計年報

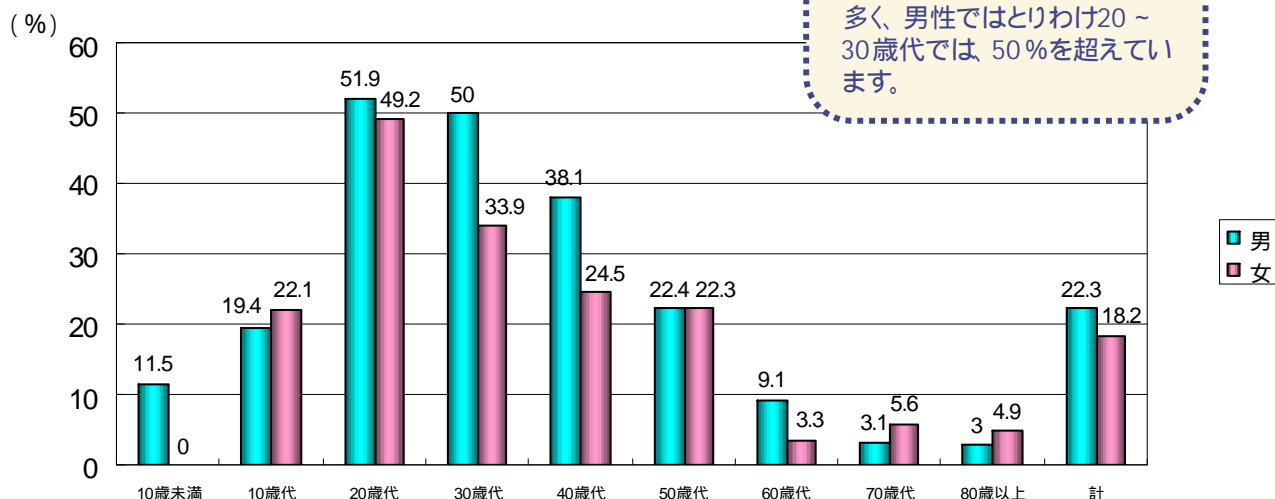
40歳以上の高血清総コレステロール者の割合 (男性200mg/dl以上、女性220mg/dl以上)



市町が行う老人保健事業の基本健診において、40歳以上の高血清総コレステロール者の割合が男女とも4割を超えています。

資料: 平成11年 愛媛県保健統計年報
平成15年 愛媛県保健統計年報

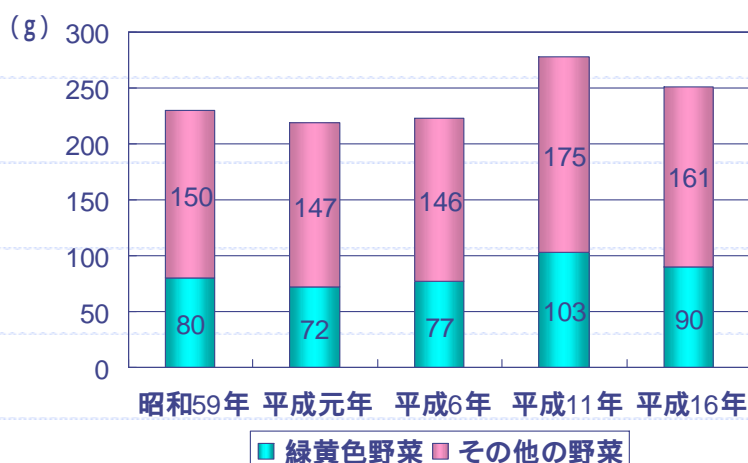
朝食の欠食率



毎日食べる人以外を欠食する人とする、男性では22.3%、女性では18.2%で、男女とも20歳代、30歳代が多く、男性ではとりわけ20～30歳代では50%を超えています。

資料: 平成16年県民健康調査

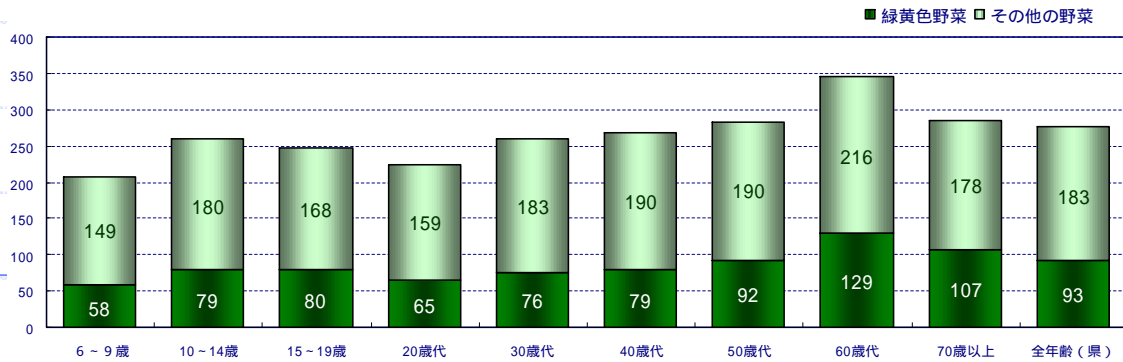
野菜の摂取状況の推移



県民1人1日当たりの野菜の摂取状況の年次推移をみると、平成16年は、平成11年の調査と比べ少なくなっています。

資料: 県民健康調査

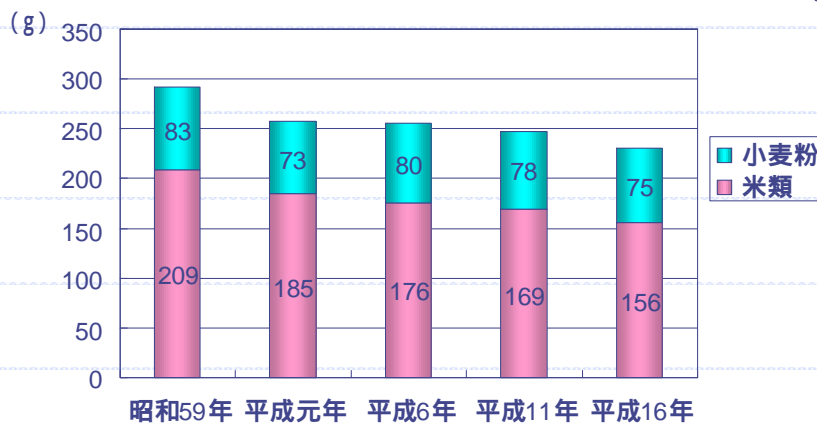
年代別の野菜摂取状況



資料: 平成16年県民健康調査

20歳代の県民1人1日当たりの野菜摂取量は、成人の野菜摂取目標量(350g)に対して、224g(緑黄色野菜65g、その他の野菜159g)となっています。

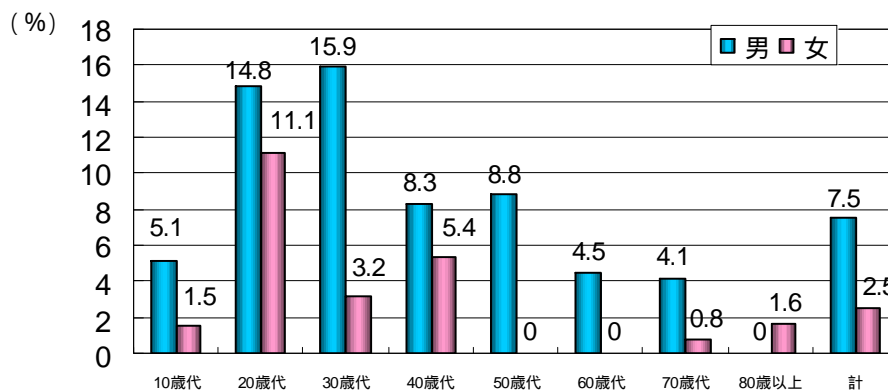
小麦粉・米の摂取状況



資料: 県民健康調査

県民1人1日当たりの小麦粉、米の摂取状況をみると、昭和59年が最も多く、調査年ごとに少なくなっています。

外食・中食の利用

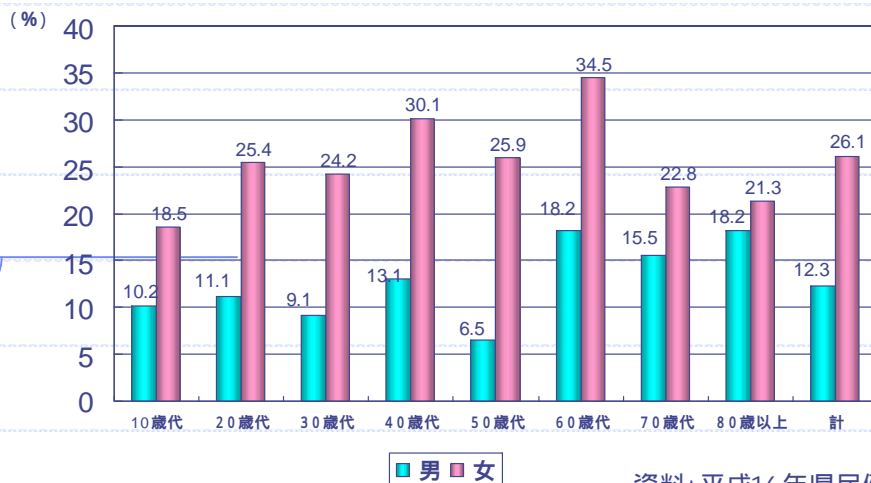


資料: 平成16年県民健康調査

外食・中食を毎日利用する人の割合は、男性7.5%、女性2.5%です。

年代別にみると、男性では20～30歳代、女性は20歳代で特に割合が高くなっています。

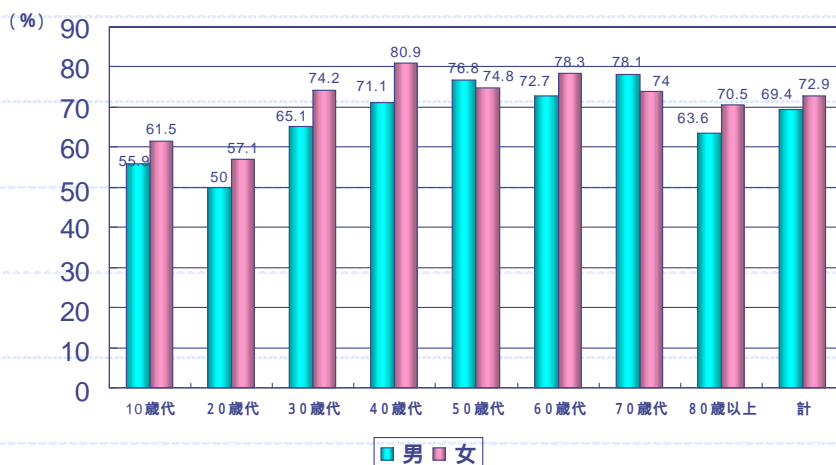
栄養成分表示を参考にする人の割合



栄養成分表示を参考にする人の割合は、男性12.3%、女性26.1%で、年代別にみると各年代とも男性より女性で割合が高くなっています。

資料: 平成16年県民健康調査

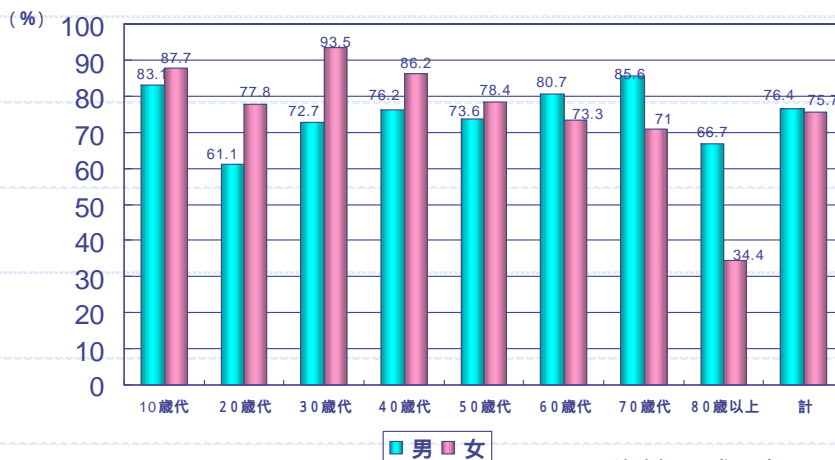
主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の割合



食卓にほとんど毎回「主食・主菜・副菜」をそろえた食事をしている人は、男性69.4%、女性72.9%で、年代別にみると、男女ともに10~20歳代で割合が低くなっています。

資料: 平成16年県民健康調査

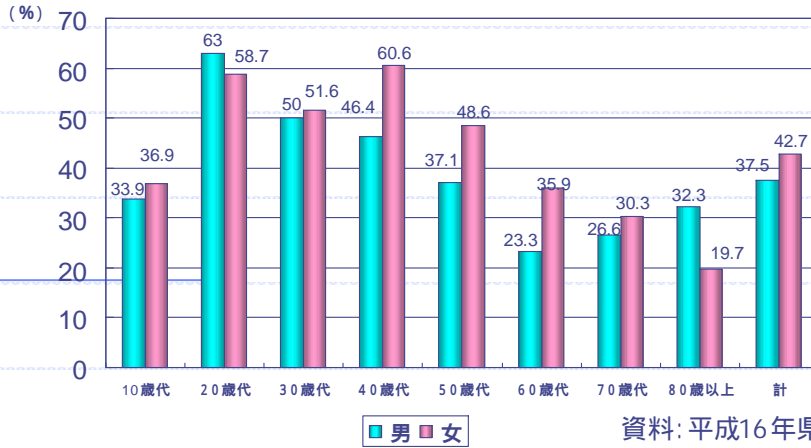
1日1回、2人以上で楽しく食事をしている人の割合(ほとんど毎日)



ほとんど毎日1日1回、2人以上で楽しく食事をしている人の割合は男性で76.4%、女性で75.7%で、年代別にみると、男性では、20歳代、80歳以上で割合が低くなっており、女性では80歳以上で著しく低くなっています。

資料: 平成16年県民健康調査

自分の現在の食生活に問題があると思っている人の割合



自分の現在の食生活について問題があると思っている人の割合は、男性37.5%、女性42.7%で、年代別にみると、男女ともに20～40歳代で高くなっています。

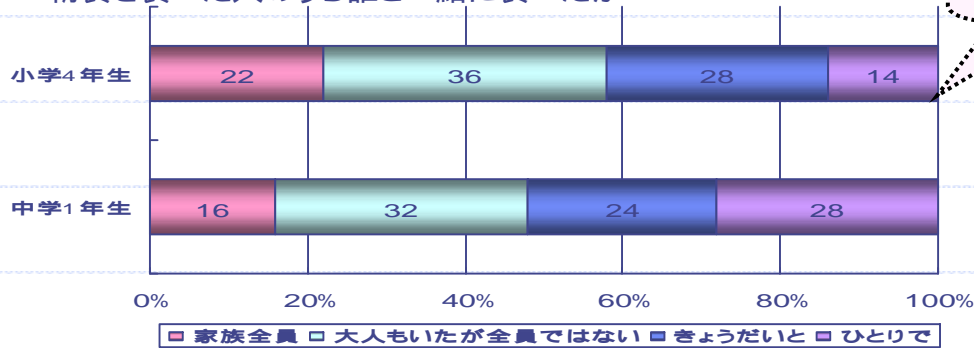
児童生徒の朝食の摂取状況

調査当日の朝食の欠食率は、小学4年生で4%、中学1年生で7%です。朝食を食べない主な理由は、「時間がない」、「おなかがすいていない」、「欲しくない」で高くなっています。

資料: 平成18年度食生活調査(愛媛県学校栄養士協議会)

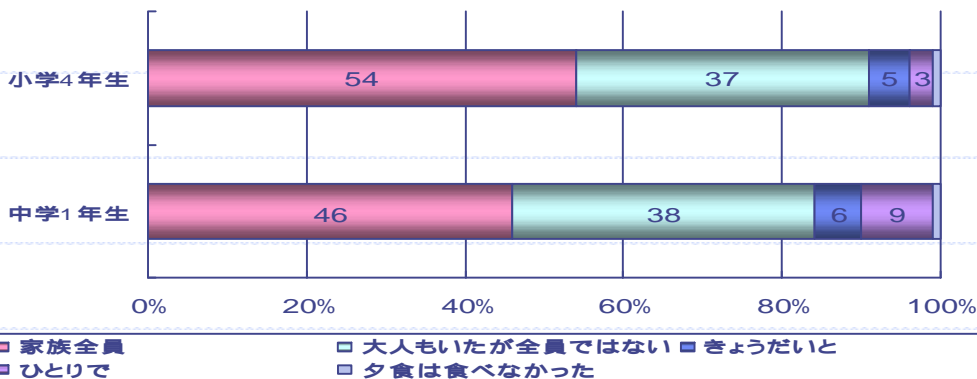
児童生徒の食事の状況

朝食を食べた人のうち誰と一緒に食べたか



夕食を誰と一緒に食べたか

夕食については約50%の児童生徒が「家族そろって食べている」と答え、「全員ではないが大人も一緒に食べている」と答えた児童生徒を合わせると80%を超えています。「一人で食べている」と答えた小学4年生は3%、中学1年生は9%あります。

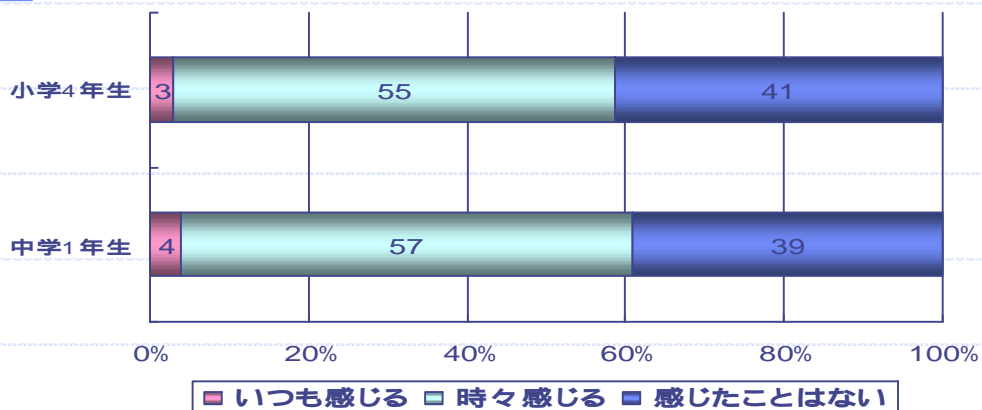


資料: 平成18年度食生活調査(愛媛県学校栄養士協議会)

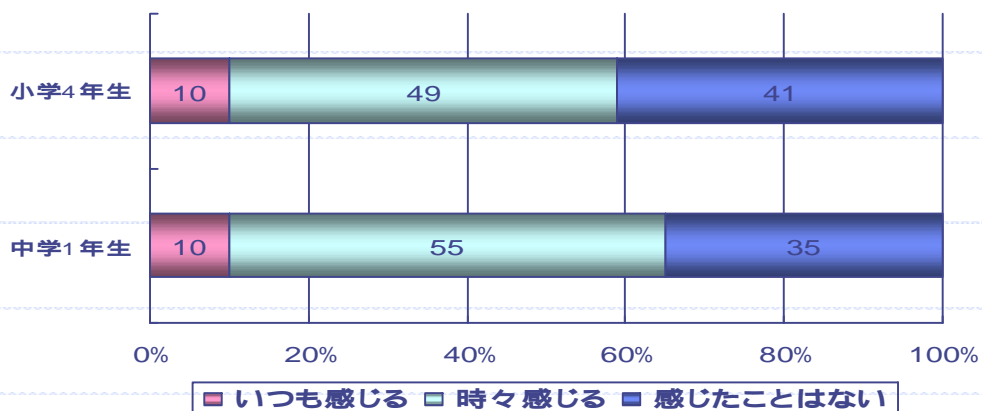
児童生徒の不定愁訴の状況

「頭が痛い」、「行々する」、「疲れる」といった不定愁訴を「いつも感じる」「時々感じる」と答えた割合は、50%以上あります。特に「疲れる」の項目では、「いつも感じる」と答えた小学4年生は24%、中学1年生は27%です。不定愁訴を感じる割合は、小学4年生よりも中学1年生のほうが高くなっています。

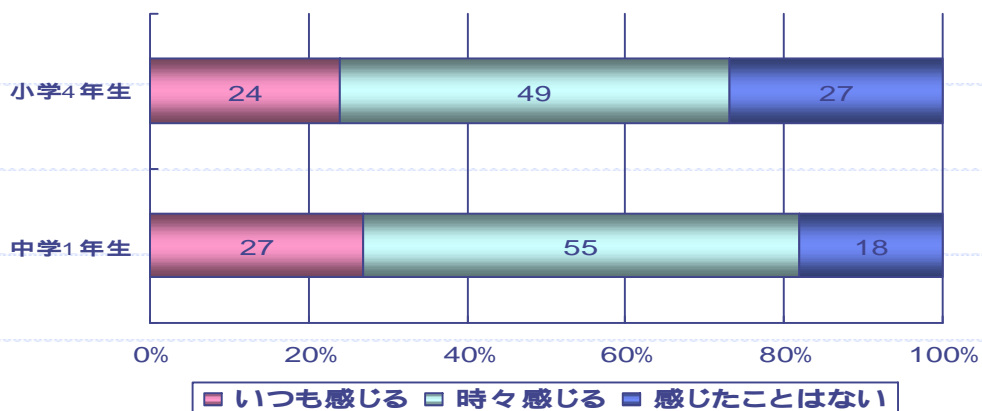
頭が痛い



行々する



疲れる



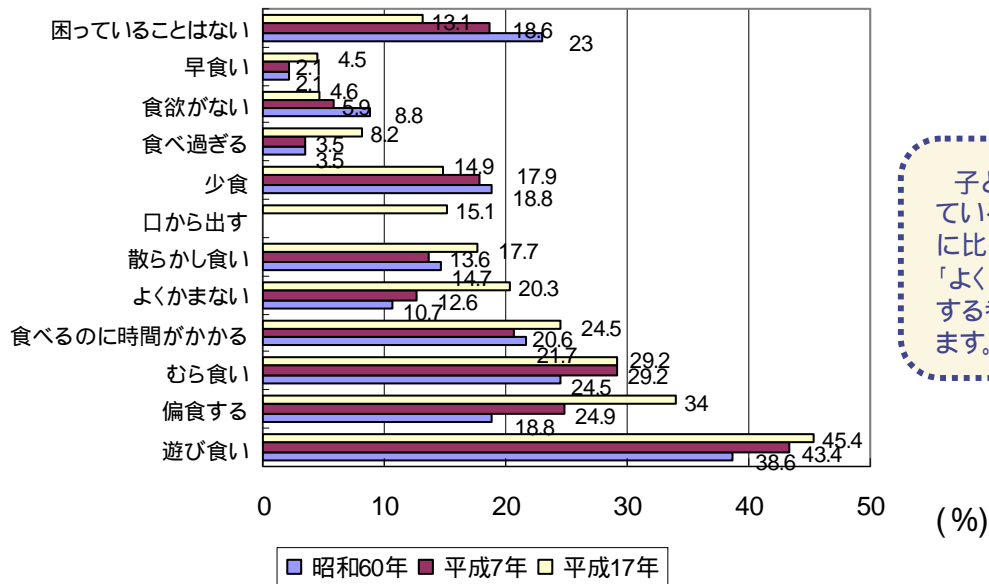
幼児の朝食習慣

年齢層 \ 習慣	ほぼ毎日食べる	週に4、5日食べる	週に2、3日食べる	ほとんど食べない
合計	90.6%	5.4%	2.0%	2.0%
1歳	93.3%	4.1%	0.6%	2.0%
2歳	88.4%	6.1%	3.5%	2.0%
3歳	90.3%	5.9%	1.8%	1.9%

朝食に欠食がみられる子どもは約1割みられます。

資料: 平成17年度乳幼児栄養調査(厚生労働省)

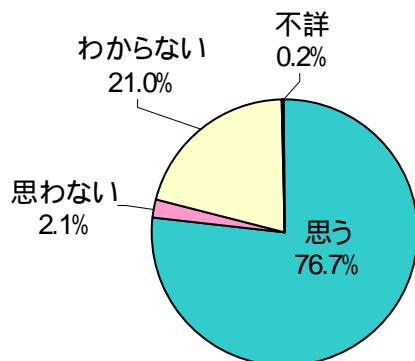
子どもの食事で困っていること



子どもの食事で困っていることは、10年前に比べて「偏食する」「よくかまない」と回答する者が増加しています。

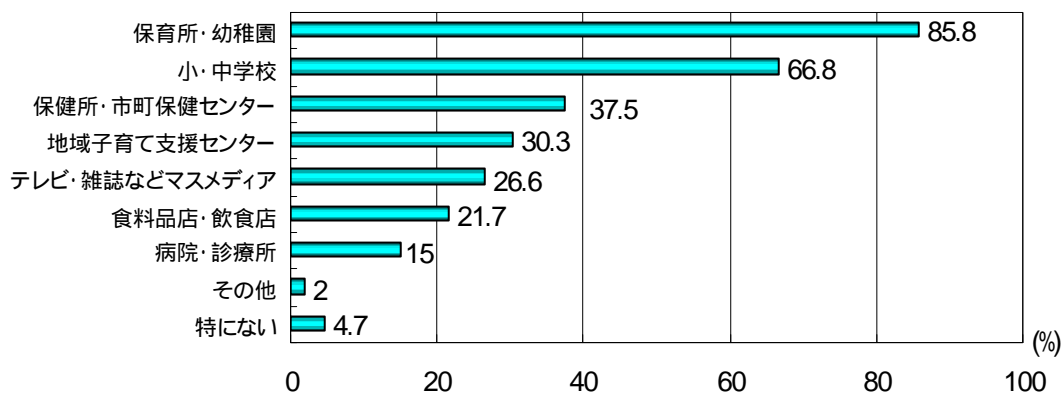
資料: 平成17年度乳幼児栄養調査(厚生労働省)

家庭での食事や生活を通して、子どもが健康的な食習慣を身につけていくことができると思うか



資料:平成17年度乳幼児栄養調査(厚生労働省)

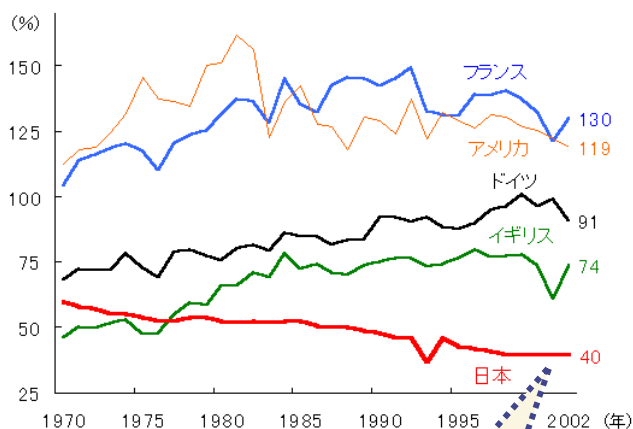
子どもが健康的な食習慣を身につけていくために取り組みが必要な機関



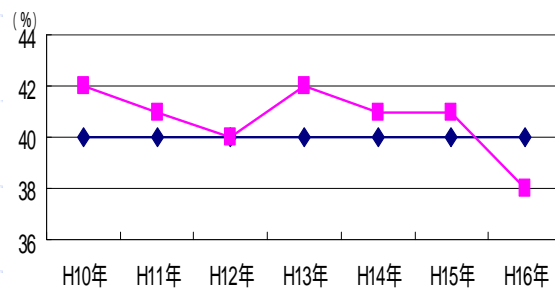
資料:平成17年度乳幼児栄養調査(厚生労働省)

「家庭での食事や生活を通して、子どもが健康的な食習慣を身につけていくことができると思う」と回答した人は約8割。また、そのために家庭とともに取り組みが必要な機関としては、「保育所・幼稚園」「小・中学校」の順に高くなっています。

食糧自給率



愛媛県の食料自給率 (カロリーベース)

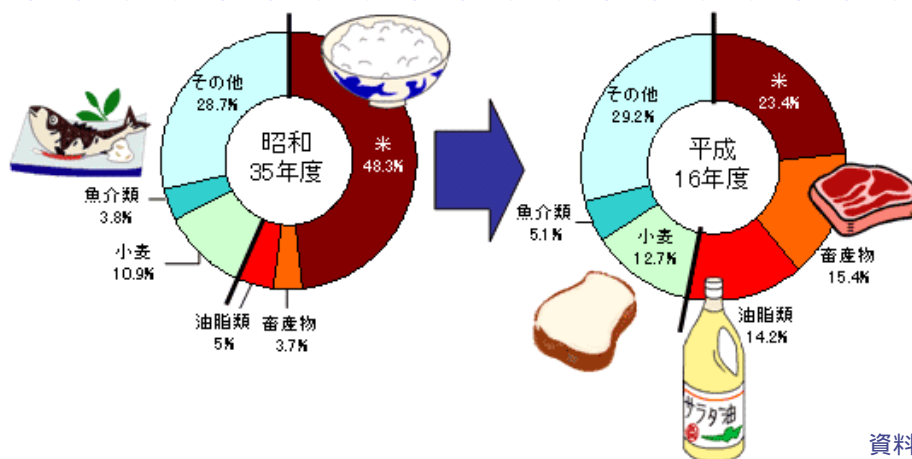


◆ 全国 ■ 愛媛県

資料: 農林水産省「食料需給表」(平成16年度)

食料自給率は、主な先進国の中で最も低い状況です。

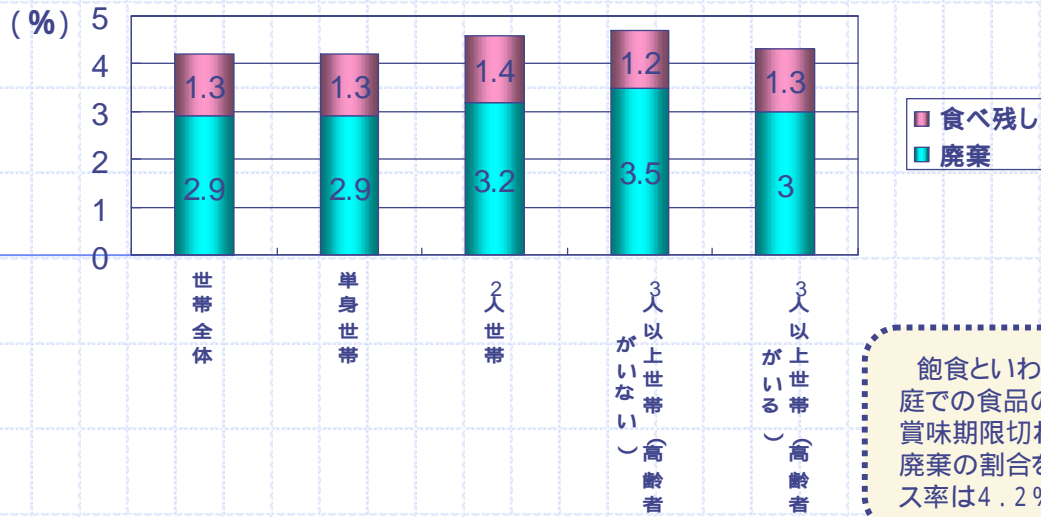
食生活の変化(食事のエネルギーに占める割合)



資料: 農林水産省

昭和35年度の食事と平成16年度の食事を比較すると、平成16年度は、米からとるエネルギーが減少し、畜産物や油脂類が増えています。自給率の高い米の消費が減少し、自給率の低い畜産物や油脂の消費が増えてきたことにより、食料全体の自給率が低下しています。

世帯における食品ロス率

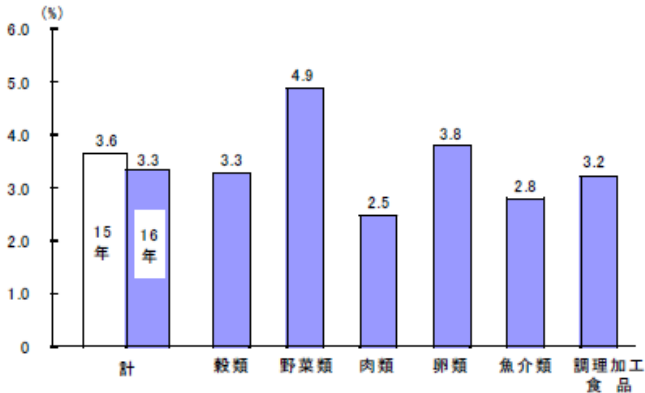


飽食といわれる中で、家庭での食品の食べ残しや賞味期限切れなどに伴う廃棄の割合を示す食品ロス率は4.2%です。

資料: 農林水産省「食品ロス統計調査」(平成16年度)

食品類別食べ残し量の割合(食堂・レストランにおける昼食時の食べ残し状況)

図1 食品類別の食べ残し量の割合



食堂・レストランにおける食べ残しの割合は3.3%で、前年より0.3%下回っています。食品群別にみると、野菜類が4.9%と他の食品に比べて高くなっています。

主な調理品別の食べ残し量の割合(単位%)

調理品	食べ残し量の割合
ごはん(白飯)	3.7
野菜のあえもの	3.7
野菜のゆでもの	6.7
野菜のサラダ	6.2
野菜の漬物	11.6
肉の炒めもの	3.4
肉の揚げ物	2.7
魚介の焼き物	3.2
魚介の揚げ物	3.2
みそ汁	3.4

食べ残しを主な調理品別にみると、野菜の漬物が11.6%と最も高く、次いで野菜のゆでもの、野菜サラダとなっています。

資料: 農林水産省「食品ロス統計調査」(平成16年度)